



あなたはデジタル派？アナログ派？



あなたの自宅には、辞典（辞書）がありますか？

辞典（辞書）には、国語辞典、漢字辞典、ことわざ辞典、百科事典、英和辞典、英英辞典・・・等様々なものがあります。

数年前までは、ほとんどの家に一冊の国語辞典はあったように思います。今はどうでしょうか。

みなさんは、知らない、分からない単語があったときには、辞書で引いていますか。それとも、スマホで検索されているのでしょうか、どちらでしょう。スマホのなかった時代は、単語の意味が分からなかったら、辞書を引いたものです。スマホの登場で単語の調べ方も大きく変わりました。辞書とスマホ、どちらが有効なのでしょうか。

「グーグル効果（デジタル性健忘）」という言葉が聞かれたことがあるでしょうか。「グーグル効果（デジタル性健忘）」とは、“検索サイトの調べ物など、デジタルデバイスに保存された情報については、「別の場所に保存されているから」と脳が覚えようとしないう現象”とされています。

脳科学者が行った次のような実験があります。それは、辞書とスマホで2分間でどれだけの単語を調べることができるのかというものです。辞書で調べると5つの単語でしたがスマホで調べた場合は6つという結果で、スマホの方が1つ多かったようです。紙をめくりながら辞書で調べるよりも、指を動かすだけで調べるほうが早くなるようです。

次に調べた単語の意味を思い出せるかをテストしたところ、辞書で調べた単語は5つのうち2つ思い出せたのに対し、スマホで調べた単語は6つのうち1つも思い出せなかったそうなのです。まさにこのことがグーグル効果と言えるのでしょうか。スマホがあればいつでも調べられるという思いからなののでしょうか、記憶に残っていないようです。

「スマホでいつでも調べられるから、別に覚えておかなくてもいいや」ということではないのでしょうか。スマホは、インターネットが使えなくなった状態、例えば災害時等には活用できなくなります。自分が知っていることや覚えていることを駆使して生きていかなければならないという状況になったときは、本当の「生きる力」が問われます。別に覚えておかなくてもいいやではすまないのではないのでしょうか。

スマホやパソコンなどのようなデジタル機器の登場で私たちの生活は格段に便利になりました。今のような情報化時代では、これらをうまく活用したいものです。しかし、辞書や辞典を引く、紙に書いてみる、本や新聞を読むなどのアナログ的な行為も「生きる力」を育むために大切な行為なのではないのでしょうか。

今、子どもたちは夏休みです。時間は十分あります。意味が分からない単語があれば、国語辞典で引かせたり、興味のあることを辞典で調べてみたり、読んでみたりする経験をさせるよい機会です。デジタルでは味わえないアナログの良さを感じることができるのではないのでしょうか。